

11月度議員懇談会

プロスポーツによる地方創生について懇談



11月度議員懇談会を11月1日11時より福井商工会議所ビルにて開催し、議員66名が参加した。

開会にあたり八木会頭から挨拶が行われ、10月19日、20日に開催された北陸技術交流テクノフェアについて振り返った。第34回目となった今回は、181の企業・研究機関等が出展し、2日間で昨年より2千人ほど多い、約1万8千人が来場した。今年は特に、関東地方の企業等の出展が目立ち、新幹線福井開業を見据えて、関東方面からの経済交流が活発化していることを実感したと述べた。加えて、「こういった機会は福井の企業にとっても大きなチャンスであり、是非活用いただきたい



開会の挨拶を行う八木会頭

い」と呼びかけた。

また、19日に開催された記念講演会では、登壇されたマツダ(株)の菅浦田会長(菅浦田 隆)の講演を通して、クルマ作りに携わる全ての人が、「良いものを顧客に届きたい」という同じ価値観を共有することが、良い製品を作り上げていると改めて感じることができたと振り返った。

続いて卓話に移り、ラグビーチーム、静岡ブルーレヴズ株式会社の代表取締役社長を務める山谷拓志氏より「プロスポーツが地方創生の起爆剤となる」福井はスポーツでまだまだ熱くなれる」と題して講演が行われた。

まず、世界的に見たプロスポーツの大きな市場規模とポテンシャルを示し、福井においても、今後大きな可能性を秘めていると述べた。

近年のスポーツでは、感動や楽しみを与える「観る価値」の需要が増しており、それに応えるためのプロスポーツチームや、観る環境を整えた施設が大きな価値を持つ。海外での事例や山谷氏の経験から、福井市と同規模の都市でも大きな経済効果が上がっていることを踏まえて、それが地域創生の起爆剤になるという見解を示した。

大きな効果や価値を生み出すことが



山谷氏による卓話の様子

期待できるプロスポーツは、チームの育成に加えて、付随する施設を整備することも重要となる。山谷氏は、限られた目的にしか活用できない体育館よりも、イベントや会議など、多目的な機能を持つ、稼ぐ力を持ったアリーナ施設を作らなくてはならないと述べた。

最後に、日本ではプロスポーツの普及が世界よりも大きく遅れている現状を示した上で、国内における先進事例を参考に、福井の地でも、これからの活用方法を検討し、地域にとって無二の宝物として盛り上げてほしいと締めくくった。